

## Contents

- 1) 学会からのお知らせ  
2) 健康心理学コラム vol. 74 當目 雅代 (同志社女子大学)

## 1) 学会からのお知らせ

## ■訃報

本学会名誉会員の春木豊先生 (早稲田大学名誉教授) が2月9日にご逝去されました。ご生前の学会への多大なるご貢献に深謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## ■Journal of Health Psychology Research の Vol. 31, No. 2 が発行されました

掲載論文は、J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jhpr/list-char/ja>) からご覧いただけます。閲覧には、購読者番号とパスワードが必要です。購読者番号およびパスワードは、会員専用ページ (<https://bunken.org/jahp/mypage/logins/login>) でご確認ください。

## &lt;原著&gt;

- ・宮前光宏 (他) 外見スキーマが精神的健康に与える影響—女性を対象とした横断研究—
- ・松中久美子 (他) 教員の余暇活動とレジリエンスとの関連
- ・野中俊介 (他) セルフ・モニタリングがストレスマネジメント教育におけるコーピングレパトリーの獲得に及ぼす影響
- ・Tomoko Matsui (他) Factors contributing to the use of psychosocial support services among cancer outpatients in Japan: A qualitative study on help-seeking behavior
- ・三浦佳代 (他) 脳卒中患者の活動性向上を目的とした介入プログラムの試行—介入時期に着目して—

## &lt;資料&gt;

- ・磯和壮太郎 (他) 大学生の Sense of Coherence が抑うつと主観的幸福感に及ぼす影響に対する自発的な自己観の好ましさに由来する媒介効果の検討
- ・上野雄己 (他) 日本人成人における運動行動と Big Five パーソナリティ特性の関連
- ・尼崎光洋 (他) Health Action Process Approach を用いた大学生の口腔保健行動の検討
- ・Mizuho Konishi (他) Tentative development of a psychological program for alleviating psychological burden of mothers of young children with milk allergy
- ・山口文子 勤労者の仕事に対する使命感の測定—漸進的使命感尺度の開発—

## ■2019年度 アーリーキャリアヘルスサイコロジスト賞について (国際委員会)

2019年度も日本健康心理学会に所属する若手研究者および Early Career 研究者による国際学会大会での優れた発表を表彰することになりました。応募期間は3月1日から3月31日までです。詳細につきましては、学会ウェブサイト掲載情報 ([http://jahp.wdc-jp.com/pdf/2019\\_health.pdf](http://jahp.wdc-jp.com/pdf/2019_health.pdf)) をご参照ください。

## ■異動・転居などによる登録情報の変更について (財務委員会)

情報や郵便物を確実にお届けするため、年度の変わり目で所属

住所、メールアドレスなどが変わる場合は、学会 HP の会員専用ページ (<https://bunken.org/jahp/mypage/logins/login>) にアクセスして、速やかにお手続きください。ID、パスワードが分からない場合は、事務局 ([jahp-post@bunken.co.jp](mailto:jahp-post@bunken.co.jp)) へお問い合わせ下さい。希望する会員種別が変わる場合や、今年度限りで退会の場合は、3月末日までに [jahp-post@bunken.co.jp](mailto:jahp-post@bunken.co.jp) へお知らせ下さい。なお新規入会は、随時受け付けています。

## 2) 健康心理学コラム Vol. 74

## 「手術患者の心配事」

當目雅代 (同志社女子大学)

医療制度改革や医療技術の進歩により、待機手術患者 (予定された手術を受ける患者) の平均在院日数は10日前後、入院は手術の1~2日前となっています。看護師は今まで以上に患者に関わる時間が少なくなっています。しかし、入院期間が短縮されても手術に対する患者の不安や心配は変わりありません。私自身も全身麻酔で手術を受けたとき、手術前は、退院後2週間ほどしたら仕事に復帰し、元の生活に戻れるだろうと安易に思っていました。実際は、2週間経っても体が元にもどらず、焦りが生じました。手術を経験して初めて患者心理を体験しました。

そこで、手術を受ける患者の心配事に事前に対処できないかと考え「待機手術患者用心配事アセスメントツール: ESWAT」(小笠ら, 2013) を作成しました。待機手術患者の「心配事」を「患者を不安状態にしている事柄のうち、手術を受けることに関連して生じる具体的な事柄で対処が可能なこと」と定義しました。入院前に ESWAT を用いて、具体的な患者の心配事を特定することは患者のニーズに応じた個別的・継続的なケアの提供に繋がります。この ESWAT は【不確実な身体の変化】【手術までの経過】【麻酔や手術の脅威】【術後の身体的苦痛】【手術室での体験】の5つの因子で構成されています。待機手術患者192名の具体的な心配事は、「手術後は痛いのか」「いつごろ仕事や家のことが元通りにできるのか」「手術後に合併症が起らないか」「退院して今まで通りの生活ができるのか」などが高得点の内容でした。ESWAT を評価指標とし、待機手術患者に対して疾患固有の入院前患者教育プログラムを提供し、患者の身体的・心理的・社会的準備性を高める介入研究に繋がっています。

## 文献

小笠美春・當目雅代・竹下裕子 (2013). 「待機手術患者用心配事アセスメントツールの開発と信頼性・妥当性の検討. 日本看護研究学会誌, 36(5), 1-12.

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 <[jahp-post@bunken.co.jp](mailto:jahp-post@bunken.co.jp)>

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 <[jahp-ML@bunken.co.jp](mailto:jahp-ML@bunken.co.jp)>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>